

# 1874-2029

“まち”とともに新しい明日へ。

多様な発展を遂げてきた大阪ステーションシティの  
これまでと、これから。

大阪駅は開業以来、ヒトとモノを、日本各地につなぎ、多くの物語を紡いできました。

いくつもの時代の中で、人々が集う「玄関口」として利便性や快適性を追求し、

駅は街とともに、ひとつの“まち”として発展を続けてきました。

西側エリアの開発で人とまちはつながり、多様な時代のニーズに対応する

賑わいや交流、憩いの場、ビジネス活動拠点を創出していきます。

そして、これからも南側エリアの刷新で、人、まち、社会のつながりの進化、

大阪ステーションシティと大阪駅の魅力を向上し、大阪のまち全体の活性化に貢献していきます。

この場所に新たな価値を生みだしていく、世界中の人々が出会い、行き交うまちとして成長していく、

そんな新しい未来が、この先も続いていきます。

## 大阪駅150年の歴史と開発の歩み



### 初代大阪駅 開業

明治7(1874)年5月11日開業。日本で2番目の鉄道である大阪-神戸間の開通に合わせるためホーム以外は仮状態でのスタートでした。駅本屋は木造レンガ貼りの洋風建築で、当時としては特殊中の特殊建築。たちまち人々の人気をさらって大阪随一の名所となり、「梅田すてん所」の愛称で親しまれました。

1874

第2代大阪駅

1901

第3代大阪駅

1940

1983

### 大阪の玄関口にふさわしい ターミナルビルが完成 (第4代大阪駅)

昭和40年代以降、大阪市の大阪駅前市街地開発事業がスタートし大阪の玄関口にふさわしい「顔」と「機能」を持った近代的なターミナルに整備されることが熱望されました。第4代大阪駅の建設は、百貨店・ホテル等を取り入れた地下4階・地上27階・延床面積13.6万㎡のターミナルビル建設が中心事業となり、駅業務施設は高架北側に別棟(通称『北ビル』)として昭和54年に開業、続いて大阪ターミナルビル(愛称『アクティ大阪』)が昭和58年に開業しました。



### 駅とまちがひとつになった 大阪ステーションシティが誕生 (第5代大阪駅)

「駅とまちがひとつに。感動と発見にあふれた、新しい大阪駅の創造」を掲げ、駅設備とまちづくりの視点から、「抜本的な駅改良」「広場・通路の整備」「新北ビルの開発」「アクティ大阪増築」を4つの柱に。2011年には第5代大阪駅が開業。ノースゲートビルディング、サウスゲートビルディングとともに、「大阪ステーションシティ」としてリニューアルしました。「駅」と「まち」の機能を備え、大阪の新たなランドマークとしての役割を果たしていくようになりました。



広場・通路の整備



駅改良



新北ビル開発  
[NORTH GATE BUILDING]



アクティ大阪増築  
[SOUTH GATE BUILDING]

2011

2024-25

2029



### サウスゲートビルディング リニューアル

大阪駅に直結する「サウスゲートビルディング」を2025年秋から約4年をかけて全面刷新(商業エリア:地下2階~地上15階)。個性豊かな商業施設として再構築することで、大阪駅南エリアの特色を際立たせ、大阪駅周辺のさらなる回遊性向上と活性化を図ります。



大阪駅南エリアの賑わい創出

### 大阪駅西側エリアの開発

大阪ステーションシティのさらなる発展のため、大阪駅西側を中心にエリア一体的なまちづくりが進行。大阪駅(うめきたエリア)や新改札口(西口)の整備を行い大阪駅西側エリアへのアクセス性向上を図るとともに、「イノゲート大阪」や「JPタワー大阪」「うめきたグリーンプレイス」などの開業で、さらなる賑わいの創出や多様な人々が集まり価値創造が行われる場所を育てています。



西口・うめきた地下口(改札口)



イノゲート大阪



JPタワー大阪



うめきたグリーンプレイス